



↑越堀の永井さんが手がける田んぼアート。➡➡中野さんによる西遅沢の田んぼアートはとてもカラフルで、10種類の稲が使用されているとのこと

実りの秋 収穫を迎える田んぼの中に・・・ ～市内各地の田んぼアート～

気温が低く、晴れた日が少なかった今年の夏。8月の日照時間はなんと55.6時間で、昨年よりも約90時間も短かったということです。そんな厳しい環境にも耐え、市内各地の田んぼは黄金色に輝き、ドライブが気持ちの良い季節となりました。車を走らせているとふと目に入ってきた、田んぼの「どすこい」の文字。隣の力士のキャラクターも可愛らしく、自然と微笑んでしまいます。他にも各地の田んぼアートが収穫を待つばかりです。



↑➡➡黒・白・黄金色の穂。葉の色も品種によってさまざま。これらの品種を複雑に組み合わせるとカラフルな絵が描かれる



時代を超えて受け継がれる開拓の歴史 ～劇団なすの 公演～

かつて水の無い荒野であったこの土地に移り住み、苦難を乗り越えながら土地を切り開いた名もなき多くの先人たちの物語。平成12年に結成され、現在は総勢50人の劇団員が集う"市民劇団なすの"による創作劇「那須野の大地」が9月17日、三島ホールにて披露されました。

昼の部・夜の部ともほぼ満員の観客は、笑いあり・涙ありの劇を観ながら、今から100年以上前の情景に思いを馳せていました。



身の回りの“もったいない”を集めて ～黒磯駅前もったいない市～

9月10日、歩行者天国の黒磯駅前通りで第10回目の「もったいない市」が開催。天候にも恵まれ、多くの人でにぎわいました。身の回りにはモノがあふれる現在。まだ使えるにもかかわらず、捨てられてしまうモノの数々。そんな「もったいない」を集めて、使いたい人へと橋渡しをする本イベントには、一昔前の思い出の品々が並びました。昔はどこ家庭にもあった黒電話も久しぶりのお目見え。なお、写真の黒電話はまだ使えるようです。



“いざ”という時のために ～防災訓練～

毎年、日本のどこかで大雨や地震などの災害が発生しています。自然災害を防ぐことは困難ですが、万が一災害に遭遇してしまったときに備えて日頃から準備をしておくことは大切なことです。

9月3日に那珂川河畔運動公園で市総合防災訓練が開催され、市内の自主防災会をはじめ、消防団や建設業協会など多くの関係機関が参加し、簡易担架を使用した救助訓練などを行いました。また、市との協定に基づき、県北地区タクシー協議会から車両が提供され、初期パトロールを行う訓練も行われました。



↑被害状況を確認するためのパトロールにタクシーも協力



↑県防災ヘリコプターも飛来して訓練に参加



↑総合訓練の翌週には黒磯婦人防火クラブ連絡協議会による防火防災訓練が黒磯公園で開催され、参加者たちは初期消火や応急手当訓練を体験しました



歴史ある舞を奉納 ～塩原平家獅子舞～

県の無形民俗文化財に指定されている「塩原平家獅子舞」は、古くは平清盛が一族の繁栄などを願って奉納したものが元と言われ、那須地区内でも最も旧態を保っている獅子舞です。9月9日に塩原八幡宮例大祭で安全祈願や五穀豊穡を祈願し、平庭・巻よせ・弓くぐりの3形式で舞が奉納されました。舞の見どころは最後に舞う弓くぐり。太鼓の音に合わせて、1匹の雄獅子が細い弓の間を見事にくぐると、見物客から拍手が沸き起こりました。



鉄人レースにチャレンジ ～キッズトライアスロン～

水泳、自転車、マラソンの3種目を連続で行うトライアスロン。鉄人レースともいわれるこの競技に小学生が挑みました。

夏の残暑が厳しい8月26日、にしなすの運動公園でキッズトライアスロン教室が開催されました。元オリンピック選手の宇佐美彰朗さんや日本学生トライアスロン連合の選手たちがそれぞれの種目について子どもたちを指導。最後にミニレースを行い、子どもたちは練習の成果を試していました。